

私とカブトムシで完食

千葉県佐倉市立青菅小学校 五年 松本 七海

毎年、夏になると私のおじいちゃん、車で十分で着くなし園につれてつてくれる。そのなし園は、車ぎりぎりのせまい道をとおって、おくへおくへさかをのぼり青いネットが見えるまでまっすぐいくと着く。

なしの種類は豊水だ。豊水は、歯ごたえがあり、みずみずしく、あまい。双子の私と航平は、大きな豊水一つをペロリと食べてしまうほどおいしい。そのなし園は、家族けいえいで、お父さんがなしを育てて、お母さんがなしをお客さんにだしている。むすこさんは、なしをむいて、くれたり、子どもと一緒に遊んでくれる。

このなし園の最大のとくちょうは、おみやげに、たくさんのカブトムシをくれるところだ。そのカブトムシは、むすこさんがむいてくれたなしの皮をえさとして食べている。たい量のなしの皮のうえに、丸々太ったオスやメスのカブトムシがたくさんいる。むすこさんがスコップでなしの皮の山をほると、下にカブトムシのよう虫がたくさんいた。むすこさんは、

「好きなだけもって行って、かわいがってね。」

と私と航平に言った。そこで私たちは、オス二ひきとよう虫一ひきをもらった。そこで私たちは聞いた。

「よう虫ってどうやって育つんですか？」

むすこさんはいった。

「よう虫は、カブトムシと一緒になしの皮を食べているんだよ！」

と言われて私は、なしの皮は、子そだてにもつかわれているのだと思ひ感心した。

私は、大好きななしが、中身だけでなく、皮まで、カブトムシが食べてることを知り、うれしく思った。今は、ネットでなんでも、かえる時代だけれど、私は、直接なし園に行き、とれたてのなしを、食べたり、カブトムシが皮をむだなく食べるすがたを、見れるこのなし園が大好きだ。